

## 第5回 稲の食べ跡が違うイノシシとシカ！

農研機構 畜産研究部門 動物行動管理研究領域 堂山宗一郎氏

イノシシとシカが共に生息する地域では、どちらも田んぼに侵入して稲を食べてしまいます。シカは田植え後の苗も食べますが、イノシシは苗をほとんど食べません。乳熟期を迎える頃から両者とも穂についた米を食べ始めます。特にイノシシは、消化の関係から乳熟から糊熟までの固くなっていない米を好んで食べます。また、イノシシは稲を地面に倒して食べる事が多く、田んぼは踏み荒らされた様な酷い状態になります。

イノシシとシカでは稲穂の食べ方が異なるため、食べ跡もそれぞれ違ったものになります。イノシシは、穂を口に入れると口を動かして器用に粃米だけを穂から外して食べるため、跡には穂の軸が残ります。シカは、穂を口に入れると鋭利な奥歯で切って食べるため、跡には穂の軸があまり残りません。私の同僚が調査したところ、イノシシだけの被害を受けた田んぼでは、食べられた穂の長さが元の長さの半分以下になることが14%と少なかったことに対し、シカの

被害も受けた田んぼでは、食べられた穂の79%が半分以下の長さになっていました。その内の25%が穂元で切られており、穂が全く残っていない状態でした。

一見、稲が踏み倒された田んぼはイノシシだけの被害と思われがちですが、食べ跡を調べることでシカの被害も発生していることを確認できます。被害がイノシシだけの場合とシカとイノシシどちらの場合では対策に違いもあるため、食べ跡をしっかりと確認してみましょう。

